

三月の手技材

目白幼稚園 和田 實

三月の手技とは云ひながら三月中旬から四月中旬迄の材料ですのに、三月の卒業製作とも云ふ可きものに就ては前月號に既に述べてしまいましたから、茲に述べる必要のあるものは四月の新學期始めの手技を如何にするかと云ふこと丈になりました。

四月始めの手技としては新入幼児に手技手藝の面白さを感じせしめることが、誘導教育の主眼點でありますから、凡てが其積りで行はねばなりません。單に、手技ばかりでなく、幼稚園に於ける凡てが、新入幼児に面白く印象されることが必要でありますから、新入幼児にさせる手技は成る

可くやさしく美しきものを選び、古參の幼児には新入幼児に家づととして持たして歸すお土産みやげを作らせると云ふ様にして、一には新舊幼兒の融和を計ると共に此機會を利用して古參幼兒の手技を練習し、兼ねて新入幼兒に手技のやさしき技能であること、面白き作業であることを、先輩の實習で觀得する様にさせることが必要であります。此意味で先づ新入幼児にさせる手技の方から考へて見ると

折り紙。では山、蝶、鳥（蝶を少し變形したものの）

筋紙。では輪つなぎ、輪つなぎの應用物。

豆細工。では彌次郎兵衛、團子等で成る可く、やさしく面白きものを工夫することです。以上は製作に屬するものですが、製作以外の手技即ち色板、積木、箸輪、粒體等も初歩の子供には最も面白く遊べるでせう。

古參幼兒の製作としては、必ずしも一齊に一定せずとも、幼兒と相談しつゝ適宜、新入幼兒の興がりさうなものを選び、種々製作せしめることが出来るでせう。要するに四月中は主として新入兒を嬉しがらせることを主として、古參兒を激勵すると云ふ様にしたならば幼兒の凡ての活動が生きて來ることだらうと思ひます。

手技手工以外に於ても此意味は相當重んぜらる可きでありませう。觀察、談話、唱歌、遊戲、等にも保育者の工夫あらんことを希望します。

